

【ショートレター】

独大学との相互交流から看護学生の卒業研究に比較の視点を得て†

成田 有吾*・北出 絵美*2・澤田 樹里*2・鈴木 玉美*2・辻村 梨帆*2・平林 真結*2・竹内 佐智恵*

三重大学大学院医学系研究科看護学専攻*・三重大学医学部看護学科*2

本稿では、本学看護学科の学部学生 5 名が、看護師や保健師資格を得るためのカリキュラムをこなしつつ、ドイツ、フライブルクにあるカトリック応用科学大学の医療管理経営学士コース学部学生と卒業研究での相互交流を模索した実践記録を提示した。探索的調査として 3 テーマ：学部学生からみた ①ワーク・ライフバランス (WLB)、②職業人の疲労感の評価、③Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender (LGBT) に関する認識と理解について、を取り上げ、それぞれ調査票の英語版を作成した。外国との比較検討を思い立ち調査票を形成したことで、学生たちは、提携大学との背景や医療システムなどの差違とともに、協調による関係性の深化を相互に実感できた。

キーワード：看護学科、卒業研究、国際比較、ワーク・ライフ バランス、疲労感、LGBT

1. はじめに

看護学科は実践的教育が主体で時間的余裕を得にくい。そのため、学部生による国際交流は極めて短期間となる。しかし、短期間でも在学中に実体験することで、視野が格段に開け、新たな看護観、リーダーを目指す志気醸成が期待される。本学看護学科とカトリック応用科学大学 (CUASF) との交流は、2014年に始まり、2016年4月以降、CUASF 学生の3か月の本学および三重県内医療機関での研修、同年12月の短期来日と続き、Elke Dusch 教授から相互交流を学部学生の卒業研究への活用が提案された (成田ほか 2017a)。知見発信の機会である研究は交流に新たな利点を付加する。当学科では2017年2月のゼミナール配属の説明会時にこの提案を紹介した。第4学年の専門ゼミナール・卒業研究として2017年4月から5名の学生がテーマを探すところから開始した。

2. 目的

学部学生の卒業研究として、国際交流が、世界的に人の往来が多くなった現代に活躍できる看護師を目指し、共通性と独自性を理解することに繋がるための調査票形成を報告することを目的とした。

3. 対象と方法

2017年度は、先ず日独双方で回答できるテーマと評価方法を検討した。学生5名は、各領域における実習での経験等と先行研究の検討から上記3テーマを選択した。①では竹川ほか(2012)のWLBの評価項目を、また、②では越

河ほか(1987)の蓄積的疲労徴候調査(Cumulative fatigue symptoms index: CFSI)を、英訳した。③LGBTとは、Lesbian (女性同性愛者)、Gay (男性同性愛者)、Bisexual (両性愛者)、Transgender (性別違和を感じる者)からそれぞれの頭文字をとった略語である。LGBTでは邦語・英語とも適当な先行研究を見いだせず、双方で比較的良く知られているWLBとの比較を視覚的アナログ尺度 (visual analog scale: VAS) を用いて評価表を作成した。

①の竹川ほか (2012) の報告から、WLBに関する評価項目を抽出して、先ず邦語のWLB評価表を作成した。この評価表をMoodle上に掲載し、予備調査として当学科の第4学年を対象に匿名性を担保して2017年7月21日～8月4日に回答を依頼した。集計はMHが担当した。また、当学科の第4学年の学生が認識するWLBについて、フォーカスグループインタビューの案内をMoodle上公募した。2017年8月上旬、文書同意を得て収録し、質的研究の手法に準じてEKが担当した。

英語版は、TSが中心となり、案内文、face-sheet、および調査票本体の英語版粗原稿を作成した。本学への留学生への協力依頼、および英語を母語とする者による校閲を経て、英語調査票とした。2017年7月、暫定の英語版調査票を、Dusch教授の研究室に送った。意見を受け、調査票に修正を加えた。2017年9月23日から同10月1日まで、当学科からフライブルク、カトリック応用科学大学への短期訪問があり (成田ほか in press)、JSとRTが参加した。両名が訪独中に、Dusch教授の研究室学生10名に対し、口頭での説明と同意取得を経てWLB英語版調査

2017年7月21日

票への回答を依頼した。

②RTは、CFSIのオリジナル版を当学科の学生等8名に試行し、81項目への回答が4分程度、回答に対する負担感(VAS評価)が22/100程度であることを確認した。その上で、RTが、CFSI英語版の案内文、face-sheet、およびCFSI本体の英語版の粗原稿を作成した。同様に、留学生への協力依頼、英語母語者の校閲、Düsch教授の研究室の意見を経て最終版とした。フライブルク訪問中に、現地学生10名に対し、RT自ら口頭での説明と同意取得を経て、このCFSI英語版への回答を依頼した。

③JSは、タイの大学看護学部との交流のなかでLGBTと看護の重要性を経験した、本邦とは異なる現地での対応と、昨今のマスコミ報道による日本のLGBTへの問題と臨床場面での対応に着目した。LGBTに関する先行研究では、看護師の知識と理解に関して十分な知見を得ることができなかったため、(1)LGBTという語をどのくらい聞いたことがあるか、(2)LGBTという語の意味をどのくらい理解しているか、(3)WLBという語をどのくらい聞いたことがあるか、(4)WLBという語をどのくらい理解しているか、(5)看護師にとってLGBTの理解の重要性、これら5項目をVASで問い、(6)看護師としてLGBTへの理解が必要だと思った経験等を自由記載で求める6項目の調査票を作成した。予備調査として、所属ゼミと所属運動部の先輩看護師6名に、また、JSが訪独中に、前項同様に現地学生10名に対し、JS自ら口頭での説明と同意取得を経て、LGBT英語版調査票への回答を依頼した。

4. 結果

①WLBについて、形成したMoodle上の邦語調査票を図1と図2に示した。期間中の予備調査に第4学年75名のうち51名が回答した(回答率68%)。続くフォーカスグループインタビューには計7名が参加した。予備調査の結果はそれぞれの卒業論文報告に譲り、ここでは調査票の形成結果を中心に提示した。

WLBに関する英語版調査票を図3に示した。なお、ドイツ側の学生の状況を念頭に下記4点を改編した。

- 1) 邦語版の設問には、年齢、結婚、子どもの有無があるが、外国人学生の背景が多様であることから割愛した。
- 2) 邦語版では「女性が仕事を続けていくために最も必要なもの」としたが、英語版では女性に限定しなかった。
- 3) 既に子どもがいる場合も想定されQ7に追記した。
- 4) 質問の最後に自由記載の意見欄を設けた。今回の質問内容や選択肢の項目で、内容が不十分であったとする場合の意見をここに求めた。

アンケート調査協力をお願い

近年、看護師不足が社会問題となっていることはみなさんご存知かと思えます。また看護師が育児と仕事を両立していくことは容易ではなく、仕事から離れざるを得ない場合も少なくありません。来年度に就職を控えた本学の看護学生がどのような意識をもち、将来への思いを抱いているかを聞かせてもらえれば、今後のワークライフバランス議論に資することと思われます。そこで、今回、女子ばかりでなく男子も含めた看護学生のワークライフバランスおよびキャリア形成に対する現時点での思いを回答して下さい。

そこで、本研究では、統合実習を終えたばかりの4年生看護学生を対象に、操作に慣れていて、かつ、守秘機能と匿名化機能に優れたmoodleを用いて、アンケート調査を行います。どうぞ、皆様のご協力をお願いします。

【方法】

1. 三重大学 moodle2へログインしたあと、「すべてのコース」に入り「医学部」から、「看護学科 ***** test WLB」を選択
2. 同コースへの受講登録を
3. コース内に表示された「ワークライフバランスの意識調査 アンケート」をクリック
4. 「アンケートに答える」をクリック。なお、設問によって「その他」選択時のみ自由記載部分が出てきます。

【アンケート調査期間】

2017年7月21日～8月4日

【倫理的配慮】

このアンケートは匿名かつ自由意志での回答をお願いしています。Moodleの個人情報管理機能と匿名性機能を活用しています。また、アンケート結果は匿名性を保ったまま処理し、研究以外に使用することはありません。ご理解いただけましたらこのMoodle上のアンケートへの回答にご協力をお願いいたします。ご質問、ご意見は下記までお寄せ下さい。

三重大学医学部看護学科4年
基礎看護学ゼミ M H
e-mail: *****@m.mie-u.ac.jp

図1. Moodle上調査の案内

以下の質問に対して、該当する番号に○をつけてください。(Q4を除き、該当する番号を一つ選択)

- Q1. あなたの性別 (1. 男 2. 女)
- Q2. 所属回生 (1. 1回生 2. 2回生 3. 3回生 4. 4回生)
- Q3. 大学卒業後の進路
(1. 看護師(交代勤務あり) 2. 看護師(交代勤務なし) 3. 助産師 4. 保健師 5. 進学 6. 公務員(保健師以外) 7. 一般企業 8. その他)
- Q4. 希望する進路における現在の従事者に対して聞いてみたいこと(複数回答可)
(1. 体力的問題 2. 労働時間・休暇 3. 収入 4. 人間関係 5. 結婚・出産・育児 6. 仕事とプライベート 7. 昇進の機会 8. その他)
- Q5. 具体的な自分の将来像
(1. できる限りキャリアを追求し、役職を得る 2. 地域に貢献し社会的活動のリーダーとして活躍する 3. 仕事とプライベートの両方を大切にす 4. プライベートを最優先する 5. その他)
- Q6. 女性が仕事を続けていくために最も必要なもの
(1. 育児環境 2. 職場環境 3. 福利厚生の実 4. 配偶者の理解 5. 自分の意思 6. その他)
- Q7. 将来子どもを持ちたいと思いますか
(1. 持ちたい 2. 持ちたくない 3. わからない)
- ↓
- 「1. 持ちたい」と回答した方のみ、以下の質問にお答えください。
- Q8. 小学校就学前の子どもがいる場合の子育て中の仕事の形態
(1. 仕事を続ける(常勤にて) 2. 仕事を続ける(非常勤にて) 3. ある時期仕事から離れ、落ち着き次第復帰する 4. 子育てを機に専業主婦になる 5. その他)
- Q9. 中学校以上の子どもがいる場合の子育て中の仕事を希望する機関
(1. 医療機関 2. 研究機関 3. 教育機関 4. 行政機関 5. 一般企業 6. その他)

図2. WLB moodle上、邦語調査票

We would like to ask you about work-life balance (WLB) after your graduation from university. The aim of this survey is to compare thoughts on this topic (WLB) between students of Mie University and Freiburg Catholic University. It takes approximately 4 to 5 minutes to complete the questionnaire, which may include some items that seem unusual in your culture. It was translated from the Japanese version directly and is entirely anonymous. The results will be utilized only for this study. Please tell us your honest thoughts and opinions. By answering the questionnaire, I understand that you got the cooperation agreement for this survey. Thank you in advance for your kind cooperation.

図 3-1, WLB 調査 英語版 案内文

Questionnaire:

Please check your answer. (Please choose only one answer except for Q4.)

Q1. Gender

- male
- female

Q2. Year in university

- first-year
- second-year
- third-year
- fourth-year

Q3. Plans after university graduation (choose one)

- Nurse (with shift works)
- Nurse (without shift works)
- Midwife
- Public health nurse
- Going to a graduate school
- Official (public) servant (all except for a public health nurse)
- General enterprise
- Other ()

Q4. Topics I want to hear about from seniors in my target field. (Multiple answers possible)

- Physical problems
- Working hours and holidays
- Income
- Human relationships
- Marriage, child birth and child care
- Work-life balance
- Chance of promotion
- Other ()

Q5. Actual future plan (choose one)

- Pursue a carrier and move up the ranks as much as possible.
- Contribute to local area and play an active role as a leader in society.
- Prioritize both work and private life.
- Prioritize private life
- Other ()

Q6. Most necessary for continuing your job (choose one) (※改編部分)

- Environment for raising children
 - Work environment
- Work conditions
- Spouse's understanding
- Personal motivation

Q7. Do you want children in the future? / Do you already have children? (※改編部分)

- Yes
- No
- Unsure

If you answered yes, answer the following question:

Q8. How will you deal with work and child-care responsibilities before children reach elementary school age? (choose one)

- Continue working full time.
- Continue working part time.
- Stop working for a while and return when things settle down at home.
- Leave work to focus on child care.
- Other ()

Q9. Most preferable work place when children start junior high school. (choose one)

- Medical institution
- Research institution
- Educational institution
- Administrative agency
- General enterprise
- Other ()

The questions are over. Finally, please tell us your opinion.

Was the content of these questions and options enough to explain your work life balance and your thoughts on your career development?

- Yes
- No
- Unsure

↓

If you answered no / unsure, what kind of topics do you think are necessary to explain your work life balance and ideas on career formation? (Please write in English.)

Thank you very much for your cooperation.

図 3-2, WLB 英語版 調査票

②作成した CFSI 英語版を下記 (図 4) に示した。

Request of the questionnaire survey

In recent years, the fatigue of the worker has become a significant problem due to high demand, long on-duty hours and the interference of the circadian rhythm. In Particular, fatigue is directly connected with safety service and individual work-life balance in nursing jobs having a lot duty on-duty hours. To compare the degree of fatigue, several index which can quantize fatigue has been devised. For this questionnaire, mainly the index CFSI(cumulative fatigue sign index) has been used in Japan since the 1870s An English version of this index was created for the possibility of use in other countries.

The following items of fatigue takes around 4 minutes, and the feeling of burden was around 22 by measuring in VAS.

I perform this study based on the free will of the participant and expect cooperation after understanding the purpose of the study. This questionnaire is performed anonymously and an individual cannot be specified. Also the outcome is used only in this exploratory study.

It regards the answer to this questionnaire as an agreement for participation in this study.

図 4-1, CFSI 英語案内文

face sheet

Instruction: please answer your current working condition for this study. For the following questions, check the box and fill the blank space.

1. Gender	<input type="checkbox"/> Male / <input type="checkbox"/> Female
2. Age	_____ years old
3. Marital status	<input type="checkbox"/> Single / <input type="checkbox"/> Married
4. Position	<input type="checkbox"/> General / <input type="checkbox"/> Group leader / <input type="checkbox"/> Office organization
5. Years in this field	_____ years
6. Years of experience in current job	_____ years
7. Educational back ground	_____
8. Working shift styles	<input type="checkbox"/> Day shift / <input type="checkbox"/> Two split shift / <input type="checkbox"/> Three split shifts
9. Length of shift	_____ minutes
10. Length of over time	_____ minutes
11. Frequency of holiday shifts	_____ times
12. Living situation	<input type="checkbox"/> Living by oneself / <input type="checkbox"/> Other
13. Commuting time (one way)	_____ minutes
14. Typical dinner	<input type="checkbox"/> Usually have dinner with family
	<input type="checkbox"/> Often eat later than family
	<input type="checkbox"/> Rarely have dinner with family
15. Satisfaction with job	<input type="checkbox"/> Very rewarding
	<input type="checkbox"/> Rewarding
	<input type="checkbox"/> Neutral
	<input type="checkbox"/> Not rewarding
	<input type="checkbox"/> Not rewarding at all
16. Difficulty of work	<input type="checkbox"/> Too difficult
	<input type="checkbox"/> Difficult
	<input type="checkbox"/> Just right
	<input type="checkbox"/> Simple
	<input type="checkbox"/> Too simple

	<input type="checkbox"/> Too simple
17. Level of business	<input type="checkbox"/> Cannot keep up
	<input type="checkbox"/> Quite busy
	<input type="checkbox"/> Sometimes busy but not a big issue
	<input type="checkbox"/> Average
	<input type="checkbox"/> Not busy or have extra time
18. Wellness	<input type="checkbox"/> Good
	<input type="checkbox"/> Okay
	<input type="checkbox"/> Unwell

図 4-2 CFSI 英語版 調査票

③ LGBT に関する調査票英語版を図 5 に示した。

This research is about the recognition of LGBT of nurses. The answers to this questionnaire will remain anonymous and will not be used outside of this research.

Please mark questions 1-5 on the scale at the point that is most suited with your opinion.

- Q1. How often have you heard the word WLB (work life balance)?
 Never Frequently
- Q2. How familiar are you with the meaning of the word WLB (work life balance)?
 Not at all A lot
- Q3. How often have you heard the word LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgender)?
 Never Frequently
- Q4. How familiar are you with the meaning of the word LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgender)?
 Not at all A lot

The word "LGBT" stands for "Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgender".
 The silence surrounding LGBT issues in the nursing profession may have wide-ranging negative consequences for patients such as delayed health care seeking, strained communications between nurses and patients, and an increase in levels of stress for patients and their partners when encountering health care systems, encounters that are already very stressful because of the illness or injury, and compounded by fears of discriminatory treatment.
 However, in the field of nursing, LGBT studies and education does not advance yet.

- Q5. After reading the above, to what extent do you think it's necessary for nurses to know about LGBT?
 Unnecessary Very necessary
- Q6. Please write if there is any experience you think is important for a nurse in order to understand LGBT.

図 5 LGBTに関する調査票英語版

5. 考察

本報告では、学部卒業研究での提携校との相互交流を模索した学生による、探索的な 3 テーマ (学部学生からみた①WLB, ②職業人の疲労感の評価, ③LGBT に関する認識と理解) の調査票作成を記載した。

学部学生の卒業研究においては、学科内での報告に留まる場合、倫理審査等の手続き基準はまだ厳格ではない。予備調査の結果は、各担当学生からの卒業研究での報告に留めた。それ故、調査票からの具体的な内容には言及できなかった。この点は本 short letter の限界であった。

一方で、学部学生において、外国との比較検討を思い立ち、調査票を形成したことは、提携大学との背景やシステムなどの差を実感した手掛かりとなった可能性がある。今回、著者らは、次へ繋げる、より良い方策に向けての教示を受けることを意識して報告した。各テーマ

で、共通で用いることが可能な英語の評価法の検索では先行研究の精査に疑問が残ることを認識している。

例えば、CSFI で測定しようとした疲労感に関する調査では、疾病などを含めて、Multidimensional Fatigue Inventory (MFI) がある。MFI は日本語版も作られていて、信頼性や妥当性の検討もされてきた(菅谷ほか 2005)。今回、学生は、CSFI が、本邦で産業衛生以外の様々な分野でも継続されて広く利用されている点、また CSFI が実質的に標準尺度であると位置づけられている点 (出村ほか 2001) に着目して英訳を試みた。

テーマの選択に関しては、ドイツ側からの示唆もあった。看護学科では 4 年次になって初めてゼミ配属が決まる。実習の間を縫ってテーマを絞り込むため、時間的な制約がある。独学生は、看護師等の実務経験を有し、管理業務を目指して大学のコースを選択しているため、本邦の学部 4 年生との比較には困難な点もあった。一方で、英語版の作成は差違の抽出に有用であった可能性がある。

今後、学部学生の卒業研究での交流が継続され、相互の協調と理解が進むことを期待したい。

参考文献

- 出村慎一・小林秀紹・佐藤進ほか(2001)「青年用疲労自覚症状尺度の妥当性の検討」『日公衛誌』48,76-84.
- 越河六郎, 藤井亀(1987)「蓄積的疲労徴候調査(CFSI)について」『労働科学』, 63, 229-246.
- 菅谷渚・貝谷久宣・岩佐玲子ほか(2005)「日本語版 Multidimensional Fatigue Inventory (MFI) の信頼性・妥当性の検討」『産業ストレス研究』12, 33-240.
- 成田有吾・児玉豊彦・竹内佐智恵ほか(2017)「海外から本学への研修学生の来訪とその後の展開 2016 年前期」『三重看護学誌』19, 35-40.
- 成田有吾・竹内佐智恵・児玉豊彦ほか (2017)「海外からの研修学生の来訪と本学からの派遣」『三重看護学誌』in press.

†Yugo Narita*, Emi Kitade*, Juri Sawada*, Tamami Suzuki*, Riho Tsujimura*, Mayu Hirabayashi*, and Sachie Takeuchi*: English Title: Collaboration on bachelor theses between the School of Nursing, Mie University and Catholic University of Applied Sciences Freiburg.

*Course of Nursing Science, Graduate School of Medicine, Mie University, 2-174 Edobashi, Tsu, Mie, 514-8507, Japan

*2School of Nursing, Faculty of Medicine, Mie University, 2-174 Edobashi, Tsu, Mie, 514-8507, Japan

(2017.10.30 受付, 2017.12.27 受理)